

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—227
Eye

夜間クルマを運転する際には、前照灯(以下、ヘッドライト)、車幅灯、尾灯、番号灯、室内照明等(乗合自動車のみ)を点灯しなければならない。
ヘッドライトの照射範囲は、ロービーム(下向き)の場合は約40m、ハイビーム(上向き)では約100mとなっていて、周囲の状況等によってヘッドライト

WHY
クルマのヘッドライトをハイビームにしているか?



のハイビームとロービームを使い分けることで、一層の安全運転に繋がる(右記道路交通法参照)。
今回は、夜間に走行するクルマのハイビームの利用状況を観察した。

道路交通法

第52条第2項

自動車等は、夜間、他の車両等と行き違う場合、または他の車両等の直後を進行する場合で、他の車両等の交通を妨げるおそれのある時は、前照灯の光度を減じ、または照射方向を下向きにするなどの操作をしなければならない。

●ロービーム



●ハイビーム



- 観察場所/神奈川県相模原市津久井町 青野原 国道413号
- 観察日/12月4日(木曜日)
- 天候/くもり
- 観察時間/19:45~20:45
- 観察者/4名

●クルマのヘッドライトのハイビーム利用状況を観察する
夜間にヘッドライトをハイビームにしていたのは116台中22台(19.0%)

WATCHING
歩行者を見かけてハイビームにするドライバー

観察地点は神奈川県相模原市津久井町の国道413号線にある、信号機の無い横断歩道付近。直線路で周囲には畑が広がり、昼間は見通しが良い場所。街灯は所々に設置されているが、人家等が少なく、観察した午後8時前後の時間帯になると、周囲はかなり暗かった。
観察中、1時間にこの地点を通過したクルマは計177台だが、今回観察の対象にしたのは、計116台。クルマが2台以上連なって来た場合は先頭車両のみを対象とした。また、対向車が100m以内の距離にいた場合は対象から除外し、前車や対向車が無い場合のみを観察している。

観察の結果、ヘッドライトをハイビームにして走行していたのは116台中、22台(19.0%)だった。
観察中、犬の散歩などで外出する歩行者を5人ほど見かけた。黒っぽい服装がほとんどで、街灯やヘッドライトなどの明かりが無いと、遠くからでは歩行者の存在に気づかないほどだった。ハイビームで通行していたトラックが歩行者とすれ違う際には、手前で減速し、注意深く通り過ぎる様子が観察された。また、ロービームで走行していたが、歩行者に接近すると、ライトをハイビームに切り替える乗用車も見られた。
対向車が現れると、ハイビームで走行しているクルマも途中からロービームに切り替えていた。中には、ハイビームのまますれ違おうとして、対向車にパッシングで注意を促された例も見かけた。

PROPOSE
ハイビームとロービームの上手な使い分けを

観察では、ハイビームを利用しているクルマは全体の約2割と少なかった。夜間、前車や対向車が無い場合には、照射範囲が広いハイビームのほうが視界の確保に有効だ。特に、街灯や店舗・住宅などの明かりが少ない場所では、ハイビームを利用することで歩行者や自転車の有無の障害物や道路標識などを早めに確認できる。例えば、60km/hの場合、1秒間に約16.7m進む。ロービーム照射範囲である40m先は約2.4秒先である。ハイビームなら照射範囲が100mなので、約6秒先の物体を照らすことができる。
また、ハイビームの利用は、相手を早く発見できるだけでなく、自分の存在を歩行者や対向車に早目に知らせることもできる。

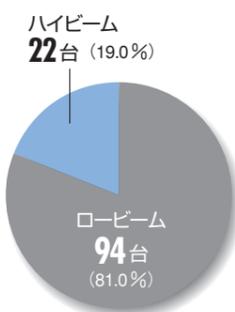


ロービームで走るクルマが多かった

ハイビームで走行する軽自動車

一方で、夜間、前車や対向車が接近している場

●クルマのヘッドライトのハイビーム利用状況(116台中)



	ハイビーム(上向き)	ロービーム(下向き)	小計
乗用車	18 (18.6%)	79 (81.4%)	97
商用車(トラック含)	4 (26.7%)	11 (73.3%)	15
二輪車	0 (0%)	4 (100%)	4
小計	22 (19.0%)	94 (81.0%)	116

※前車や対向車が無い場合のみを観察。ハイビームとロービームの判断は観察者の見解による

※ディスチャージヘッドライト<HID>=高輝度放電灯のこと。光源にフィラメントを用いず、電極間に高電圧をかけて放電させることにより、バルブ内に封入したガス(水銀などの金属電子)を発光させるもの。ハロゲンヘッドライトの約2倍という大光量ながら消費電力が少なく、高効率。夜間や雨天時の走行における視認性が高く、安全性の向上にも効果がある。

あなたの実践している交通安全は何ですか? みなさまの声を募集しています

いつも、SJ紙をご愛読くださりありがとうございます。
SJ編集部では、本紙3月号にて、「私が実践している安全運転、交通安全(仮)」と題した特集を企画しています。この特集では、読者のみなさまが、日頃、安全運転や交通安全に関して実践されていることについて、みなさまの声をもとに紹介したいと考えています。
つきましては、「日頃、安全運転や交通安全に関して実践していること」に関する情報・ご意見を、下記メールアドレスまでお送りください。
sj-mail@ast-creative.co.jp
※お寄せいただきました全てのご意見を掲載できかねる場合がございます。あらかじめ、ご了承ください。
※調査ご協力等のために個別にご連絡をさせていただく場合があります。

合には、他車への眩惑を防止するために、ヘッドライトはロービームに切り替える必要がある。
夜間でも外出する歩行者や自転車利用者もいる。暗くて見えにくい時は、まずはスピードを控え目にした安全運転の励行とともに、前車や対向車がいる時はロービーム、それ以外の時はハイビームに切り替えるなど、周囲の状況に合わせてヘッドライトを上手に使い分けてほしい。